

Next

発行所 一般社団法人茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22
電話 029(221)5126(代)

ホームページ <http://miraikyo.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumiraikyo/>

発行人 鈴木 達二

令和4年度 基本方針

建設未来協議会 会長 鈴木 達二



2年に渡る新型コロナウイルス感染拡大の影響はいまだ社会全体に大きな影を落とし続けています。しかしながら、欧米だけでなく、国内においてもウィズコロナ・ポストコロナ時代への期待が高まっており、人々の意識や行動、企業の動向にも変化が現れつつあります。先行き不透明で速い変化が予想される現在の状況においても、「地域の守り手」として安心・安全の確保や生活環境の整備・維持の役割を担う建設業は、持続的にその使命を果たしていかなければなりません。

当会としては昨年度同様、社会情勢や環境に適応した活動を継続的に行っていくことにより、建設業の健全な発展に向けた課題解決に貢献していきます。例えば、業界全体の喫緊の課題である「担い手確保」、その大前提となる「働き方改革」、その手段としての「生産性向上」、課題解決を側面からバックアップする「地域貢献活動」や「広報・イメージアップ」。これらに対して当会は、茨城県建設業協会の青年部として協会本部・支部および各委員会はもとより、女性部会である「建女ひばり会」とも協力し、関係機関・団体と密接な連携を図りつつ積極的な活動を展開していきます。昨年度を踏襲した以下の活動方針のもと、1年目にできなかったことを含め、各事業分野における成果をより確実なものにしていきます。

(1) 地域貢献・社会連携分野

- ① 建設業および建設業が担う地域インフラ整備の重要性について、地域の皆様の理解をより深めていただくために積極的なボランティア活動、イベント開催等を行う。
- ② 持続可能な社会の実現に向けた建設業および当会の役割についての研究および啓蒙活動を行う。

(2) 生産性向上分野

- ① 加速するDX（デジタル・トランスフォー

メーション)の動きの中、ICT施工はもとより、事業全体へのデジタル技術活用による生産性向上と経営力強化に向けた研究および啓蒙活動を行う。

- ② 働き方改革・生産性向上に関する技術的・制度的な課題について、会員相互に、また発注機関と積極的に情報共有し、課題解決に取り組む。

(3) 次世代育成分野

- ① 現場見学会・現場実習・出前授業等を通じて次世代の担い手育成を図るとともに、学生・生徒および学校と積極的にコミュニケーションを行い、建設業界に対するニーズの把握に努める。
- ② 体験学習やイベントでの情報発信、教材等の制作・配布を通じ、低年齢層の建設業および地域インフラへの興味関心、将来の就業意識の醸成を図る。

(4) 広報・ソーシャルメディア分野

- ① 「建設」(建設業および地域インフラ)に関する各種トピックスについて、ニーズに合わせた情報発信を行うことで、地域の安全・安心を守る地域建設業の重要性を広く一般にPRする。
- ② 一般参加型のイメージアップ事業や、SNS等ソーシャルメディアの活用を通じ、一般社会との双方向のコミュニケーションを行うことで、「建設」が身近な存在となるよう務める。

令和4年度 第30回定時総会を開催

総務委員会 吉原 政文

令和4年度第30回定時総会は5月20日(金)にホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸にて開催された。また県建設業協会と改選時期を合わせる為、1年早く役員改選を実施し鈴木会長の再任が決定した。

冒頭、鈴木会長は昨年度の活動を振り返り、「建設ラボはいつ実施しても良いような状態まで計画した。CCI茨城の建設業体験学習や各地区の体験学習でも

今までにない新しい体験企画が導入された、コロナ禍でも未来協の創造力、企画力、実行力といった底力を見せる事のできる1年だったと思う。」と胸を張った。

続いて(一社)茨城県建設業協会石津会長より「皆様には大きな制約を受けながらの様々な積極的な活動に感謝を申し上げたい。我々建設業は従来の課題に加え、DXへの対応など新たな活動に対応しながら地域建設業の活性化を図る為、一丸となって活動してまいりたい」と更なる協調を求めた激励のお言葉を頂戴した。

その後は鈴木会長が議長となり、議事を進行。令和3年度事業報告及び収支決算、令和4年度事業計画案、収支決算案などを審議し、いずれも原案通り承認された。

来賓祝辞では田村央県土木部長が「皆様には暮らしを支えるインフラの維持管理、災害時の緊急対応など、地域社会に不可欠なパートナーとしての役割を期待している。建設未来協議会の皆様には工夫を凝らしながら様々な活動を行っていただ



建設未来協議会 鈴木会長



茨城県建設業協会 石津会長



茨城県土木部 田村部長



常陸河川国道事務所 日下部所長

いている。本年度は建設フェスタの開催をご祈念申し上げます」と述べられた。

総会終了後は新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの懇親会を開催し、卒業生及び新規入会者の挨拶が行われ、盛況のうちに幕を閉じた。

円滑な業務へ行政機関と意見交換会

関東地方整備局 常陸河川国道事務所

総務委員会 委員長 長山 朋之

令和4年1月31日(月)常陸河川国道事務所会議室において、意見交換会を開催しました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者を絞っての開催となりました。

常陸河川国道事務所から日下部隆昭事務所長、久慈川緊急治水対策河川事務所から石川武彦事務所長をはじめとする6名の方にご出席いただきました。

はじめに、日下部所長より、「昨今の激甚化する災害に対する防災・減災対策、加速するインフラの老朽化対策、ストック効果を重視したインフラ整備などを着実に進めていくには、建設業は地域にとってなくてはならない存在です。本日は円滑な事業実施に寄与できるような意見交換が出来ればと思っています」とご挨拶を頂き、石川所長からは、「未来協議会の活動内容は大変興味深く、期待しているところです。将来の建設業について話し合える有意義な意見交換会にしたい」とご挨拶を頂きました。

続いて鈴木会長が、「発注先行により、受発注者共に苦労している部分もあるのではないかと、意見交換会で知恵を出し合い、より効率的な工事進捗に繋がれば良いと思う。また、広報・イメージアップについて、官民連携しつつ、良いものを作り上げていきたい。」と述べました。

茨城県土木部

総務委員会 委員長 長山 朋之

令和4年2月7日(月)茨城県土木部と建設未来協議会、建女ひばり会との意見交換会を開催しました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ウェブ会議形式での開催となりました。

茨城県土木部検査指導課から幸加木課長補佐、太田係長、監理課から小松崎課長補佐、木村係長にご出席いただき、建女ひばり会と合同での開催となりました。

技術者制度の運用がテーマとされ、現場代理人・主任(監理)技術者の途中交代、一時不在、育児休暇等について、活発な意見交換が行われました。特に上記について認められる条件や、手続きの流れについての質問が多くみられ、受発注者間の意識共有に繋がったと思われます。

技術者不足の現状において、一時的に現場を離



その後、建設未来協議会の活動内容について報告し、いばらき建設図鑑の説明、次に常陸河川国道事務所から、工事発注予定、高校の先生向け現場見学会・高校生への出前授業、現場の声を聞くための巡回現場会議、円滑な工事施工体制の確保を図るための余裕工期設定、河川工事における「銘板」設置の試行、建設現場の遠隔臨場の試行方針策定、久慈川・那珂川・大場遊水地だより、技術者スピリッツ、久慈川ランチだよりについての説明がありました。意見交換では、建設未来協議会からの質疑・要望事項(積算関係、基準・設計関係、施工に係る生産性等)について話し合われ、濃い内容での意見交換会を行うことができました。

れる状況は必ず起こりうることであり、その実状を踏まえた上で工品質の低下を招かないような運用制度を築いていく必要があります。会員の皆様におかれましては、意見交換会が1つのきっかけとなるよう、引き続き茨城県土木部様へのご意見・ご要望の提起協力をお願い致します。



関東地方整備局 下館河川事務所

県西地区幹事 青木 敏紘

令和3年12月13日(月)、下館河川事務所において、意見交換会を開催しました。コロナ感染症の影響もまだある中での開催となりましたが、下館河川事務所からは工藤美紀男事務所長をはじめ多くの事務所関係者の方々にご出席いただきました。

議事では、下館河川事務所側からは、近年の工事事故発生状況や令和3年度重点的安全対策などの「工事事故の現状と対策について」、受発注者間双方の働き方改革の推進を図ることが目的



の「土木工事電子書籍スリム化ガイドについて」、下館河川事務所発注工事の「令和2年度優良工事等事務所長表彰について」、新型コロナウイルス感染症の拡大防止や気候変動の影響を見据えた国土強靱化の推進などによる「令和3年度国土交通省関係の補正予算の概要について」説明いただきました。未来協議会側からは、設立の目的や会員数などの「未来協議会の組織について」、建設フェスタやボランティア活動などの「地域貢献活動について」、建設フォトコンテストなどの「イメージアップに向けた取り組みについて」、インターンシップや現場見学会などの「担い手確保に向けた取り組みについて」、その他、発注者との意見交換会やチャリティー金贈呈などの活動を紹介しました。

続く意見交換では、はじめに工藤所長から工事の施工が少しでも円滑に進むように「踏み込んだ内容の意見交換をしましょう」とおっしゃって下さった事もあり、「発注時の概略設計について」、「伐木除根の積算について」、「完成検査での確認事項について」、「提出書類について」等について話し合い、大変有意義な意見交換会となりました。

茨城県土木部 高萩工事事務所

高萩・太田地区 平山 悠

高萩・太田地区は、隔年で茨城県土木部高萩工事事務所、常陸太田工事事務所と意見交換会を行っており、今回は高萩土木事務所において、新型コロナウイルス感染対策に配慮しながら開催しました。

意見交換では、働き方改革やICT施工、遠隔臨場に関する意見が多く、山間部の多い県北地域ならではの課題（電波が届かない等）が多く出され、工事事務所側から今後の課題として対応していきたいと回答をいただきました。また、ASP（情報共有システム）、電子契約についても多くの質問や意見が出されました。

これらの意見について受発注者ともに課題は多いですが、地域性も踏まえながら建設業の改革がより進んでいく様に努力していく必要があると感



じました。

この意見交換会を通じて、コロナ禍で変化が加速しつつある建設業に順応し、次世代を牽引する存在となるよう、邁進していかなければならないと強く感じました。

中学生たちがものづくりの楽しさ学ぶ

目立市立助川中学校に倉庫建築

高萩・太田地区 幹事 須田 要介

令和3年度のCCⅠ茨城（茨城県魅力ある建設事業推進連絡会議）「建設体験学習」は令和3年10月21日、11月10日の2日間、目立市立助川中学校の2年生（113名）を対象に新型コロナウイルス感染防止対策を講じて3年ぶりに開催しました。

開会式は、目立市教育委員会 折笠教育長、茨城県土木部検査指導課 久家課長、茨城県建設業協会 秋山副会長兼高萩支部長にご列席賜り、生徒挨拶では「普段できない体験ができることを楽しみにしている。今回の体験が将来の職業選択に活かされば」とのお言葉をいただきました。

1日目は、「木造倉庫基礎工事体験」「ドローン実演飛行見学」「ドローン操縦体験」「トータルステーションによる測量体験」を4グループに分けて順次実施しました。基礎工事では鉄筋切断、基礎配筋、コンクリート打設を行いました。ハッカーを使い結束練習をした後、鉄筋結束機を用いて木造倉庫の基礎配筋を行う中、手作業での結束では苦戦していましたが機械による結束では一瞬でできる違いを感じていました。コンクリート打設ではコンクリートをミキサー車から輪車で運び、基礎型枠内に流し込み、バイブレーターで充填作業を行いました。ドローン実演飛行見学ではドローンの建設業での活用方法を学び、ドローン操縦体験では実際に操縦しながら空撮などを行いました。測量体験では10mを目標にボールを投げ、追尾型のトータルステーションで着地点の実測を行いました。1日目の建設体験学習終了後、生徒より「自分たちの学校にできる建物に携わって作業ができありがたい。貴重な体験ができ視野



が広がった」と感想をいただきました。

2日目は、「木造倉庫組立作業体験」「従来型重機操縦体験」「新型重機操縦体験」「高所作業車搭乗体験」を4グループに分けて順次実施しました。木造倉庫組立作業では壁材をヤスリ掛けし、壁部分の積み上げを行いました。従来型重機操縦体験では小型バックホウ2台、振動ローラー2台を使って行い、新型重機操縦体験では緊急ブレーキ対応型振動ローラーと遠隔操作する新型バックホウを使用しました。「はじめて見た」、「安全に行っている」など生徒たちは新型機械に関心を持っていました。高所作業車搭乗体験では「普段と違う景色が見え楽しかった」などの感想をいただきました。

完成した建物は「鵬院（おとりいん）」と命名され、12月1日に引渡式を行いました。引渡式には茨城県土木部検査指導課 大塚課長補佐、茨城県建設業協会 秋山副会長兼高萩支部長にご列席賜り、学校長謝辞では、田崎校長より「コロナによって職業体験ができない中、貴重な体験をさせていただいた。体験学習に携わっていただいた皆様に感謝し大切にに使わせていただく」、生徒代表謝辞では、「建設業界ではICT技術を駆使していることを肌で感じた。今回の体験を通してものづくりの素晴らしさを知ることができた。倉庫は助川中の宝として大事に使っていきたい」との言葉をいただきました。

今回、建設体験学習に関するアンケートを実施した結果、建設業について知っていた生徒が全体の77%も占めており、そのアプローチは1位がテレビ（32%）、2位が工事現場（30%）、3



位がインターネット（13%）という内訳で、依然としてテレビ、工事現場から知ることが多いが近年は中学生でもインターネットからの情報が増加傾向にあることに気付かされました。将来どのような仕事に就きたいかわからない生徒が61%と大半を占める中、建設業に関する仕事に就きたいと考えている生徒が男女とも10%程度いました。建設業で働く女性の認知度は25%とまだ低いですが、建女ひばり会の皆様の参加によって女性の職業選択肢にもなることを実感していただくことができ、「建設業に多くの女性がいることを知ることができた」などの感想があがりました。建設体験学習を終えて、建設業がどのような業種か分かった生徒が99%を占め、建設体験学習が「楽しかった」が100%であることから、建設体験学習は建設業への理解の向上やイメージアップに効果があることが分かったとともに、体験重視の大切さを感じました。

最後に、今回の建設体験学習に参加した生徒た



ちの中から建設業に興味を持ち将来建設産業に携わる仲間が一人でも多く出てきてくれることを願うとともに、建設体験学習にご協力いただきました日立市教育委員会をはじめ学校関係の皆様、茨城県土木部検査指導課、茨城県建設業協会、建女ひばり会、建設機器・重機を提供いただいた協力会社等多くの関係者の方々に心より感謝申し上げます。

重機やドローン、測量などを体験

高圧洗浄機で校舎を清掃

令和3年11月16日(火)常陸大宮市立第二中学校にて、2年生を対象とした建設体験学習を行いました。

体験種目は、建設機械操縦体験（3tローラー、バックホウ）、測量体験、ドローン体験、高所作業車に搭乗しての高圧洗浄機による清掃体験の4つで行いました。

建設機械操縦体験では、実際に行われている現場での作業を体験して欲しい事を目的に、バックホウですくった砂を一輪車に乗せて運び、整地やローラーでの転圧といった工程を体験してもらいました。

測量体験では、現在急速に進んでいるICT施工を体験してもらうのを目的に、グラウンドのトラックの位置や距離をトータルステーションで測り、ドローン体験では実際に送信機で操縦してもらいました。

清掃体験においては、塗装工事等で行われている清掃工程を体育館の壁を使って体験してもらい

大宮・大子地区 幹事 生田目 憲明



ました。特に、高所作業車の搭乗は普段見たことのない景色を楽しみながら、手の届かないところを入念に清掃していました。

コロナ禍で職業体験ができない中、建設体験学習を通じて有意義な職業体験ができたことと学校の先生や生徒さんから感謝の言葉をいただきました。

これからも建設体験学習を通じ、減速する建設就業人口の歯止めとなる一役として寄与していきたいと思っております。

建設現場見学会・建設業インターンシップを実施

社会コミュニケーション委員長 (社会連携・担い手育成担当) 田口 富之

次世代を担う高校生・専門学校生を対象に、建設事業の正しい理解と魅力を感じていただけるよう、毎年、現場見学会・インターンシップを開催しております。今年度はインターンシップに2つの高校から学生44名、1つの専門学校から学生56名、合計100名に参加いただき、茨城県建設業協会の会員企業30社が受け入れ、各社で3日間のインターンシップを行いました。建設現場見学会は7校9学科から学生285名と教師21名、1つの専門学校2学科から学生89名と教師6名、合計374名に参加いただき、各校が県内2つの建設現場を見学しました。



茨城県労働局の発表によると2021年3月に高校卒業予定の生徒について、建設業の求人数は1497人に対して内定者は251人となり、内定者の割合は16.8%と、まだまだ若年者の入職が少ないことは間違いありません。若年入職者の更なる増加にむけて、普通科学生対象のインターンシップ、働き方改革、生産性向上への取り組みを各企業で加速させることが必要であると考えます。

結びに、この事業にご協力賜りました茨城県土木部、国土交通省、実習生・見学生を快く受け入れてご指導いただきました会員企業の皆様にご心から御礼申し上げ、ご報告に代えさせていただきます。



持続可能な開発目標 (SDGs) セミナー

社会コミュニケーション委員長 (社会連携・担い手育成担当) 田口 富之

令和4年2月21日に茨城県建設技術研修センターにおいて20名参加のもと、「持続可能な開発目標 (SDGs) セミナー」を開催いたしました。

第1部では一般社団法人中部SDGs推進センター代表理事の戸成司朗様を講師に迎え、「SDGsの歴史的意義とAfterコロナでの企業の取り組み」の講演をしていただき、第2部では常陽銀行営業企画部法人営業企画グループ主任調査役の門田大輔様を講師に迎え、「SDGs取組宣言支援サービスのご提案」の講演をしていただきました。

SDGsは国連加盟国193カ国が2030年までに達成を目指す国際目標です。このままわれわれ人間が何も考えずに振る舞えば、環境破壊がどんど

ん進み、貧富の差がさらに拡大し持続的な成長を望むことはできません。今回の講習では企業がSDGsに取り組むことにより、現代の世代だけではなく将来の世代にわたり成長していくことができることをわかりやすく理解することができました。



山吹運動公園前沿道美化活動

高萩・太田地区 石井 貴之

地域貢献活動の一環として、毎年山吹運動公園の美化活動を行っております。主に草刈機を使用した除草作業やシバザクラなどの植栽作業を令和3年7月29日(木)に行いました。

3年前の茨城ゆめ国体にむけて植えたシバザクラやツツジなどの植栽が見えなくなるほど雑草が生い茂り、道路にも覆い被さる程成長していたため、安全管理に配慮しつつ、全員が大粒の汗を流しながら取り組みました。

今後も草刈りやボランティア等の地域貢献活動を定期的に行いたいと感じました。



いばらき「建設フォトコンテスト」2021を開催

社会コミュニケーション委員長(広報・ソーシャルメディア担当) 小倉 健太郎

社会コミュニケーション委員会では、FacebookやインスタグラムなどのSNSを用いて、現場実習や建設体験学習等の建設未来協議会の活動を広報しながら、建設業のイメージアップ活動を行っております。

その一環として、いばらき「建設フォトコンテスト」を開催しております。

この活動は、建物、道路、橋、トンネル、ダム、港湾などの地域インフラやその建設現場、そこに携わる人や建設機械など、「建設」をテーマとした写真の撮影、コンテストへの応募、入選作品の鑑賞を通じて一般の地域建設業への理解を深めていただくことを目的としております。

昨年度は全国各地より438点もの応募があり、44点の入賞作品が選ばれました。これらの写真は茨城県建設業協会のカレンダーにも活用されております。

今年度も、いばらき「建設フォトコンテスト」



ホームページ



Facebook



Instagram



A部門 【建設のある茨城の風景】

最優秀賞 「アーバン・リニューアル」 萩原 晃氏

2022を開催します。インターネットからのWeb応募にも対応しており、スマホ写真も簡単に応募していただけますので、たくさんのご応募をお待ちしております。

フォトコンテストの応募締め切りは2022年9月30日。詳細は下記ホームページ・SNSにて(「いばらき建設フォトコンテスト」で検索)。

フォトコンテストの情報を含め、ホームページ、Facebook、Instagram上では様々な情報発信を行っておりますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

いばらき建設図鑑を制作 県内小中学校などへ約8200冊を寄贈

(一社)茨城県建設業協会は、建設事業推進連絡会議(CCI茨城)と共同で、建設および地域インフラの重要性や魅力について広く啓蒙することを目的としたビジュアルブック『いばらき建設図鑑』を制作し、県内の学校や図書館などに約8200冊を寄贈しました。

令和3年12月23日には、本会の鈴木達二会長が、茨城県建設業協会の石津会長とともに小泉元伸茨城県教育長のもとを訪れ、目録を贈呈しました。

『いばらき建設図鑑』は、令和2年度に本会内に立ち上げた「建設業における教育支援活動に関する調査・研究作業部会」において、小中学校などを対象に実施したアンケート調査の結果を踏まえ、制作したもので、A4判のカラー22ページ。いばらきの建設「いま」と「これから」、ヘリテージ巡礼、建設機械進化論、建設人図鑑、つくってみよう折り紙建築 in いば



らきの5つのコンテンツを用意。次世代を担う子供たちと保護者に地域インフラや建設産業の魅力を伝えるだけでなく、身近に感じてもらうため、茨城の歴史と風景、ランドマークを取り入れました。また、親しみやすい中にもリアルさを追求したイラストを採用し、小中学生でもアプローチしやすい紙面構成としました。

今後は、建設フェスタなど各種イベントなどで配布していきます。



第26回 全国建設青年会議全国大会を開催 関東建設青年会議もオンラインなどで活動

全国建設青年会議は、令和3年10月1日(金)にWEBにて国土交通省との意見交換会を開催し、①働き方改革について②新技術・新工法について③コロナ禍への対応について、現状や課題、今後の対応を話し合いました。

第26回の全国大会は、令和3年12月3日(金)に明治記念館で開催されました。人数を絞っての開催となりましたが、荻原一宏大会会長(北海道ブロック)のあいさつ、斉藤鉄夫国土交通大臣の来賓あいさつのほか、吉岡幹夫国土交通省技監による特別公演『「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる建設産業に向けた国土交通省の取

組』、基調講演2講演(新井恭子(一社)建設ディレクター協会理事長、大石久和(一社)全日本建設技術協会会長)、北海道十勝地域における建設業イメージアップへの取り組み、「今改めて考える、建設業の魅力とは」をテーマにしたパネルディスカッションなどが行われました。

関東建設青年会議は、令和3年3月30日に第1回の役員会を開催して以降、新型コロナウイルスの影響により、全員が一堂に会しての活動は難しい1年となりましたが、オンラインなどを活用し、事業を進めました。

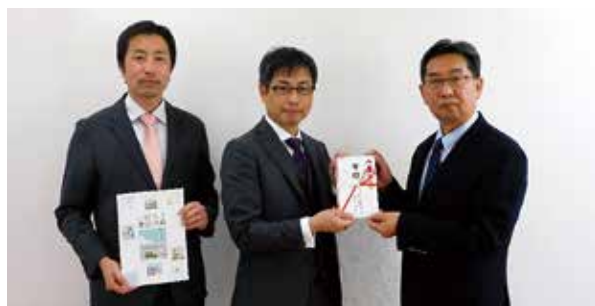
児童養護施設へチャリティー金 寄付

本年も社会貢献活動の一環として、当協議会のチャリティーゴルフコンペ収益金を令和4年1月27日に日立市内の児童養護施設日照養徳園(大谷恭久施設長)へ寄付し「いばらき建設図鑑」を子供たちへ贈呈しました。

児童養護施設への寄付は今回で5回目となります。

寄付金を受け取った大谷施設長からは「大変ありがたい限り。コロナ禍で様々な活動に制限があり子どもたちもストレスが溜まり気味。子供たち

の意思を尊重しながら、有効に使わせていただきたい」とお礼の言葉をいただきました。



ベンチ付きテーブル4基を寄贈

銚田市立大洋中学校へ

前鹿行地区幹事 安藤 祐章

当地区は、社会貢献活動の一環として、令和4年2月3日に銚田市立大洋中学校へ4基のベンチ付きテーブルを寄贈しました。

新型コロナウイルスの影響により、例年のように生徒たちと一緒に製作体験を実施することはできませんでしたが、後日、先生から休み時間や放課後にベンチ付きテーブルを利用している様子とともにお礼の言葉をいただきました。



委員会紹介

総務委員会

担当副会長 櫻井俊一 (櫻井建設工業(株))
委員長 長山朋之 (長山工業(株))
副委員長 須田要介 (日立土木(株))・河野真 (榊河野工務店)・石津弘敏 (常総開発工業(株))・島崎崇 (北条工業(株))・仁平大介 (榊仁平工務店)
委員 足立憲史 (足立建設(株))・雨貝綱太 (榊水戸グリーンサービス)・桐原裕一 (榊桐原工務店)・高橋順子 (高橋建設工業(株))・長谷川優子 (平和建設(株))・若松亜紀子 (菅原建設(株))・菊池康平 (菊丸建設(株))・平山悠 (榊水府工務店)・大内榮樹 (榊大栄建設)・大首根篤 (大栄建設(株))・金澤陽治 (有金沢建設)・益子正太 (有益子)・吉原政文 (吉原建設工業(株))・飯塚揚 (榊飯塚工務店)・石津松吾 (石津産業(株))・鎗木大輔 (鎗木建設(株))・下館雄樹 (榊波崎建設)・飯塚亮平 (飯塚建設(株))・田林剛 (勝工業(株))・成島隆平 (成島建設(株))・石田達郎 (石田道路(株))・田所大和 (榊ワイエスケイ)・白田諭 (白田工建(株))・柴信一 (旭建設工業(株))・中山英士 (のだや建設(株))・松本浩治 (榊新栄開発)

地域活動貢献委員会

担当副会長 内藤裕一郎 (榊内藤工務店)
委員長 根本昌義 (榊根本工務店)
副委員長 秋山正人 (榊秋山工務店)・若松亜紀子 (菅原建設(株))・瀬谷政行 (瀬谷建設(株))・川崎和洋 (榊川崎建設)・高野弘康 (榊高野工務店)・菅谷一成 (有菅谷工務店)・浅野麻由美 (浅野物産(株))・串田一仁 (榊クシタ建設)
委員 梅沢匠 (榊福田工務店)・大貫可奈以 (榊大貫工務店)・桐原裕一 (榊桐原工務店)・仙波秀教 (仙波建設(株))・長谷川優子 (平和建設(株))・益子朋 (益三建設(株))・鈴木欽一 (榊鈴木組)・浅川宗典 (榊浅川建設)・井上将人 (榊井上工務店)・大内榮樹 (榊大栄建設)・澤島弘樹 (東康建設工業(株))・清水亮 (榊田本工務店)・高倉美佳 (高倉建設工業(株))・鶴田大海 (榊鶴田組)・根本貴史 (ネモト建設工業(株))・橋本将一 (橋本建設(株))・八木満津雄 (榊八木組)・石井愛理 (有石井工務店)・伊東優考 (榊伊東建設)・齋藤卓也 (榊齋藤建設工業)・新堀進也 (榊新堀産業)・根崎亮 (榊根崎工務店)・羽生貴之 (榊羽生工務店)・藤枝賢一 (藤枝建設(株))・堀江光 (榊光建)・犬塚正一 (榊和城産業)・大川雄生 (榊サンワ興業)・郡司誠 (榊郡司建設)・城内浩和 (榊大平工業)・富山秀人 (榊富山園建設)・保立明宏 (榊宏洋)・松崎祐二 (松崎建設(株))・櫻井郭実 (有櫻文工業)・福智勇人 (福智建設工業(株))・仲川将大 (榊仲川建設)・大坂寛暁 (大坂建鋼(株))・菊池健郎 (榊菊池土建)・鈴木茂 (鈴木鉄工建設(株))・野中泰博 (常総ブロック(株))・青木敏紘 (榊青木建設)・小澤淳 (小沢道路(株))・高崎弘道 (榊高崎建設)・吉田長邦 (榊吉田組)

社会コミュニケーション委員会

担当副会長 栗山秀樹 (栗山工業(株))
委員長 田口富之 (榊田口工務店)・小倉健太郎 (榊小倉工務店)
副委員長 荒川繁美 (水戸土建工業(株))・宮本裕司 (芳野工業(株))・井坂陽介 (榊井坂組)・生田目憲明 (榊進栄)・福智勇人 (福智建設工業(株))・赤塚剛 (榊赤塚土木興業)・鈴木亮 (北都建設工業(株))・中山英俊 (榊染谷工務店)
委員 足立憲史 (足立建設(株))・池田大輔 (コスモ総合建設(株))・梅沢匠 (榊福田工務店)・大貫可奈以 (榊大貫工務店)・小池良一 (有小池工務店)・横田修一 (榊横田建設)・中井将史 (榊中井工務店)・中野陽平 (榊根本組)・石井貴之 (有石井建設)・河野真 (榊河野工務店)・大森裕一郎 (大森建設(株))・齋藤靖弘 (有サイトウ緑地開発)・藤井雅成 (榊丸二工務店)・安藤祐章 (榊鹿島企業)・飯島新史 (飯島建設(株))・澤田進一 (澤田建設(株))・田崎翼 (榊田崎技術)・谷田川智久 (榊ホソヤ工務店)・佐々木祐也 (常磐建設(株))・寺田健一郎 (榊羽原工務店)・細谷貴弘 (細谷建設工業(株))・浅野麻由美 (浅野物産(株))・磯邊集 (榊アレスコ)・齋藤誠 (榊齋藤建設)・成島隆平 (成島建設(株))・新井雅貴 (榊アロウズ)・中川喜夫 (中川ヒューム管工業(株))・石嶋尚 (榊石島建設)・鮎川和男 (飯田建設興業(有))・堀江平 (堀江産業(株))・串田一仁 (榊クシタ建設)・野口貴生 (野口機設工業(株))・山本明宏 (榊下妻建設)・新井邦幸 (榊新井建設工業)・印出正人 (榊丸健工業)・小川敦史 (小川建設工業(株))・加藤裕司 (加藤建設工業(株))・染谷真一 (榊染谷建設工業)・高橋拓也 (榊高橋芝園土木)・中村亮太 (中和建設(株))

令和4年度 役員名簿

地区	役職	氏名	商号
高萩・太田	会長	鈴木達二	鈴縫工業(株)
県南	副会長(総務担当)	櫻井俊一	櫻井建設工業(株)
水戸	副会長(地域貢献活動担当)	内藤裕一郎	(株)内藤工務店
県南	副会長(社会コミュニケーション担当)	栗山秀樹	栗山工業(株)
大宮・大子	総務委員長	長山朋之	長山工業(株)
水戸	地域貢献活動委員長	根本昌義	(株)根本工務店
水戸	社会コミュニケーション委員長 (社会連携・担い手育成担当)	田口富之	(株)田口工務店
県西	社会コミュニケーション委員長 (広報・ソーシャルメディア担当)	小倉健太郎	(株)小倉工務店
水戸	地区幹事	秋山正人	(株)秋山工務店
高萩・太田	地区幹事	須田要介	日立土木(株)
大宮・大子	地区幹事	生田目憲明	(株)進栄
鹿行	地区幹事	藤井雅成	(株)丸二工務店
県南	地区幹事	鈴木亮	北都建設工業(株)
県西	地区幹事	青木敏紘	(株)青木建設
水戸	監事	横田修一	(株)横田建設
水戸	監事	若松亜紀子	菅原建設(株)
県西	監事	串田一仁	(株)クシタ建設
大宮・大子	顧問	大曾根理一郎	(株)大曾根建設

●令和3年度 新規入会者

地区	氏名	商号
水戸	長谷川優子	平和建設(株)
潮来	富山秀人	(株)富山園建設
筑西	新井雅貴	(株)アロウズ
潮来	下館雄樹	(株)波崎建設
潮来	細谷雄	(株)ホソヤ工務店
常陸大宮	鶴田大海	(株)鶴田組
筑西	石田達郎	石田道路(株)
潮来	澤田進一	澤田建設(株)
鉾田	根崎亮	(株)根崎工務店
水戸	足立憲史	足立建設(株)

●卒業された皆さん

地区	氏名	商号
水戸	黒澤勝	アルプス建設(株)
水戸	高野和子	(株)鯉淵工業
水戸	田山浩之	第一熱学建設(株)
太田	岡田寿浩	(株)岡田建設
常陸大宮	増子秀典	増子建設(株)
土浦	小林圭一	谷原建設(株)
常総	新井紀雄	新井土木(株)

編集後記

ようやく「当たり前の日常」が戻りつつあります。
先日行われたサッカーJリーグ、ルヴァンカップ 鹿島アントラーズVSアビスパ福岡の一戦で、新型コロナウイルスの影響で長らく禁止されていたサポーターの一部声出し応援が解禁され、活気あるスタジアムの雰囲気を久しぶりに感じることができ、「当たり前の日常」の有り難さと、1日でもはやく本来の日常が戻ることへの期待が膨らむ楽しい時間を過ごしました。

建設未来協議会の活動にもようやく日常が戻りつつあり、2年連続中止となっていた建設フェスタが今年こそ開催できそうな状況までできています。当協議会活動の大きな柱である建設フェスタを開催してこそ、建設未来協議会が通常活動に戻ったと感じる会員の皆様も多いのではないのでしょうか。

3年ぶりの開催、もうすぐ3歳になる重機大好きな息子を初めて連れて行こうかと今から楽しみにしながら建設フェスタを開催できることを祈り、「当たり前の日常」が早く帰ってくることにワクワクしている今日この頃です。(H. I)